

てんさいくん

その姿が登録商標となり、現在も活躍しているホクレンのマスコットキャラクターで、最も歴史が古いのが、てんさい糖のキャラクター「てんさいくん」です。

商標登録は2012年と比較的新しいのですが、キャラクターそのものが誕生したのは1988年のことで、名前を広く一般から公募、3万件近い応募の中から、「てんさいくん」を選び、その発表会も開催されました。

キャラクターを制作したのは「ほのぼの君」などの人気作品で知られていた漫画家の佃公彦さんのプロダクションで、佃さん本人が名称の選考委員長を務めました。

「てんさいくん」は誕生から30年近くたった今も、ホクレンのてんさい糖や上白糖、グラニュー糖のパッケージデザインや、てんさい糖のホームページ(<http://www.tensaito.com/>)など幅広く活躍しています。



© TOMO+GREEN CAMEL

「てんさいくん」の基本デザイン



ホクレンてんさい糖のパッケージ

まめ太

ホクレンのマスコットキャラクターの中心でも、誕生経緯がとりわけユニークなのが、道産豆の小袋商品の一つであるホクレン「大豆でごはん」のキャラクター「まめ太」です。

「まめ太」は、ホクレン雑穀課の女性職員である吉川利英さん。1999年に新規商品の紙袋デザインを同課が取引先など関係者に募ったことがあり、吉川さんが考え出したのが「まめ太」だったので、ただ、その際に採用されたのは、キャラクターではないデザインだったので、「まめ太」に対する関係者の好感度は高く、「もったいない」と新規事業の紙袋やパンフレット、拡販資材などに採用されるようになり、2003年には登録商標となりました。

「好奇心が旺盛で、甘いもの、特にあんこが大好きな5歳の男の子」。こう「まめ太」を紹介する吉川さんは、わが子のようなキャラクターの活躍を今も間近で見守っています。



「まめ太」が描かれているホクレンの「大豆でごはん」



道産豆のキャラクターとして人気の「まめ太」

いもろう所長

登録商標となっているホクレンの現役キャラクターで最も新しいのが、馬鈴しょの消費拡大に向けインターネット上に開設している仮想研究機関「じゃがいも問題研究所」(<http://www.jagaimondai.jp/>)の「いもろう所長」。2014年に道内の農業関係者を対象に一般公募し、50点を超える応募作品の中から選ばれました。

誕生日は、語呂合わせで「ばれいしょの日」に決まった8月4日。もともとは同研究所で研究される側だったが、土を介して地球上の馬鈴しょたちと交信できる「じゃがいもネットワーク」を開発したことから、所長にまで上り詰めたというプロフィールも設定されています。

15年には登録商標となり、同年夏には着ぐるみも披露。ソーシャルネットワークサービス「LINE」のスタンプも展開しています。



2015年8月にホクレン食と農のふれあいファーム「くるるの杜」でお披露目された「いもろう所長」の着ぐるみ



「いもろう所長」

キャラクターは、同研究所ホームページからの情報発信の中心的役割を果たしているほか、着ぐるみは馬鈴しょの販促キャンペーンなどでも活躍中です。